

# 【成果概要】5-5 生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)適応策の検討

## 調査結果の概要

### ■ H29年度の成果

流出解析	<ul style="list-style-type: none"><li>・流出モデル構築に向けてスギ占有林、複層混交林の水文データ(雨量(林外、樹冠通過雨)、渓流水位)の収集を行った。</li><li>・適用地の1つ(複層混交林)において、雨量データと水位データにHQ式内蔵型流出モデルを適用した流出解析の準備を行った。</li></ul> <p>複層混交林:樹齢や樹高の異なる樹木で2種類以上の樹種が混在する森林</p>
氾濫解析	<ul style="list-style-type: none"><li>・試験適用地域(大津田川流域:これまでの研究で対象とした領域)に対して、標高および土地利用形態の評価メッシュサイズを25mから5mに詳細化し、計算の実行可能性ならびに計算結果の改善状況を確認した。</li><li>・また、確率降雨評価に基づく異なる降雨量を与え、湛水量および氾濫過程の応答特性を確認した。</li><li>・立江川流域の標高、土地利用状況および排水路等の諸元を調査し、それらの5mメッシュ上でのデータ入力を完了した。</li></ul>
インセンティブ調査	<ul style="list-style-type: none"><li>・ヒアリング調査により、水田Eco-DRRに係るステークホルダー抽出を行い、アンケート設計、アンケート調査実施試行等も行い、本格調査のための準備を行った。</li></ul>

■ 明らかとなった課題: 来年度第1四半期中から、出水期、また、継続した半年間データの把握が必要。

### ■ H30年度の調査計画

#### □ 流出解析

- ・取水期のデータを取得し、同地の雨水流出機構を表現できるモデルパラメータを確定し、裸地、一般針葉樹林地に対して、現況および将来降水量による流出解析を実行する。
- ・植生調査を実施し、下層植生の組成と量を把握する。

#### □ 泛濫解析

- ・継続して、約半年間データの収録を行い、先行対象地域に対して、現況および将来(④温暖化予測情報第9巻by創生プログラム、⑤気象研究所2km力学的DSデータ)降水量による氾濫解析を実行する

#### □ インセンティブ

- ・アンケート調査の継続、アンケートの回収、分析を行うとともに、アンケート調査結果をもとに、ヒアリング調査の実施、希少生物の分布調査等を行い、課題とインセンティブに関する情報収集を行う。